京都府

京都府柔道整復師会学術部・京都仏眼医療専門学校

第５回 合同講習会

公益社団法人京都府柔道整復師会

長尾会長挨拶

椎名　京校長挨拶

平成 28 年 6 月 19 日（日）午後 1 時より五条河原町の近くにある京都仏眼医療専門学校において表記の講習会が開催されました。梅雨の雨が降りしきっている日でしたが公益社団法人京都府柔道整復師会会員や専門学校生が集まりました。講習に先だって公益社団法人京都府柔道整復師会 長尾淳彦会長、京都仏眼医療専門学校 椎名 京校長より挨拶がありました。その後、第一部講習、休憩をはさみ、第二部講習、最後に質疑応答の順で進められました

第一部：「近代柔道整復術の夜明け～アプローチするための科学的根拠を求めて～」

愛知医科大学医学部解剖学講座　安井正佐也先生

安井先生は柔道整復師として臨床に従事しつつ、名古屋大学大学院医学系研究科機能組織学分野 研究生を終了後、職員を経て医学博士号を取得、死体解剖資格も取得されていらっしゃる方で名古屋学芸大学 健康・栄養研究所 客員研究員、名古屋大学人体解剖トレーニングセミナー実習指導者兼事務局長と歴任し、現在は愛知医科大学解剖学講座の助教として務めていらっしゃいます。臨床歴としては、米田医院、白石接骨院、安井接骨院でも従事していらっしゃったそうです。国内や海外の医学誌にも積極的に論文発表を重ね、各種医学系学会で数多くの発表を続けていらっしゃいます。筋骨格系の痛みに関する最近の研究では、**脳や脊髄に存在する免疫細胞であるミクログリアの異常増殖が慢性疲労症候群の疼痛に関与しているという共同研究など画期的な活動を精力的に続けておられます。**

この日の講習ではパワーポイントを使用して視覚的にわかりやすく進められました。まず症例として６５歳女性の足関節損傷を例にとって解説がありました。先生は超音波観察装置に習熟しておられる様子で前距腓靭帯が付着する腓骨下端裂離骨折、第５中足骨基底部骨折をエコー動画で説明され、接地面をフラットにして下体軸がぶれず、アラインメントを確保したギプス固定によって荷重歩行可能になる様子を動画で見せて頂きました。次に１６歳男性のサッカーによる腓骨骨幹部骨折について解説され、腓骨が動くメカニズムについて解剖学的に話され、腓骨骨折では適切な固定ができれば免荷せず荷重歩行によって早期治癒が可能であるとの見解を述べられました。

次に自己紹介として自分がいかに医学や柔道整復の世界に魅せられていったかをお話されました。父も柔道整復師で自分や息子も骨折経験があり、その時、関わった柔道整復師である白石洋介先生（当時名古屋大学解剖学教室研究生）に骨折治癒過程の顕微鏡像のレクチャーを受けたことの衝撃から、解剖の世界に身を投じたいと願うようになった経緯などお話されました。そして柔道整復師への想い、情熱について語られ、黒船戦略と銘打って柔道整復の有用性について医師や海外に向けてアピールを続けていると話されました。

今後、柔道整復師の技術はエビデンスに基づかなければ決して評価されないとされ、感性の世界ではなく、科学的に解明していくことの重要性を説かれました。その上で自分の夢は大学病院の中に接骨院を開設することであると話され、学会発表の場や小学校でケガ予防の話をしたりするたびに柔道整復師をアピールするようにしておられるそうです。再度、柔道整復の科学的検証を進め、エビデンスを示していくことによって真の意味で柔道整復術は世界に認められていくでしょうと締めくくられました。

第二部：「信頼と安心感を高めるＣＳ医療接遇マナー」

ビジネスコミュニケーションマナー講師　加藤しおな先生

ＣＳとは顧客（患者）満足（Customer Satisfaction）のことで、3 つの要素から成り立っているそうです。それは精神的サービス、物質的サービス、業務的サービスで、そのどれが欠けてもいけないし、バランスが大事なようです。加藤先生はビジネスコミュニケーション講師、日本メンタルヘルス協会公認心理カウンセラー、京商ビジネススクール講師、愛知県専門家認定 組織開発コンサルタントという肩書をお持ちでVoice Shi-Na代表としてコミュニケーションマナー研修、司会業務などを主軸にご活躍されていらっしゃいます。

先生を拝見していると声、表情、仕草に気持ちよく伝えようという心構えが感じられます。

ご講演をおっとりと聞いていると、「返事を返していただけると嬉しいです。」とにこやかな促しがあり、そこから実習は始まっていることに気が付きます。お茶出しをするときは右斜め後ろからお出しするのが基本だそうです。それは帯刀していた頃の習慣から来ているとのことです。しかし、場所やその他の条件によってはそのようにいかないこともあります。そこで臨機応変な応対、気配りの利いた声かけなどが大切になってきます。それは技術だけではない部分、即ち心の領域に関わってくるのでしょう。人は様々な年齢、立場、価値観、役職等の方がいらっしゃり、そのことを意識して応対しないといけないとのことです。

医療接遇マナー5つのポイントとして①丁寧　②誠実　③公平　④正確　⑤迅速　を挙げられ、ＣＳ患者様満足五大基本要素は①信頼性　②安心感　③具象性　④共感性　⑤迅速性　とされました。続いて第一印象の重要性に話は移り、視覚情報、聴覚情報、言語情報は何パーセントずつを占めるかを各々に書かせて、何人かに聞かれてから答えを述べられました。答えは視覚情報と聴覚情報で9割をしめていましたが言語情報の重要性にも言及されました。「初対面は自分を変えるチャンスなり」という言葉を挙げられ、第一印象で問題があると、対立者になる可能性があり、第一印象が良好であれば認知的不協和理論によって後々まで良い関係を築けるということについても教わりました。

次に対面での言葉以外のコミュニケーションについて体感しました。ペアワークでアイコンタクトのワークや顎を上げたり引いたり、また、傾聴のワークでは腕を組んだり、足を組んだりしました。それにより対話の時の姿勢やしぐさによって受け取り方が大きく異なることを学びました。先生が我々に目をつぶらせて、同じ言葉で2度、話しかけをされたとき、あまりの違いに驚きました。その種明かしは「笑顔で話す。」ということでした。笑顔で話すだけでとてもいい感じに聞こえるようです。色々と教えて頂きましたがその根底には心があり、誠意をもって相手や周囲に気遣うことが大事なことと気が付く大変ためになる講習でした。

質疑応答を含めて午後5時までの予定でしたが少し早く終了しました。当日講習場所をご提供いただきました京都仏眼医療専門学校、担当の先生方には謹んでお礼申し上げます。京都仏眼医療専門学校は残念ながら平成２８年度以降の生徒募集を停止されることになったとのことです。

広報員　中川稔貴